

無事に帰宅する為に

(岡 山) K(株) T. U

交通事故が多い昨今、無事故無検挙を心がけて業務に当たっているものの、平成17年に雪路スリップによる追突事故を起こしてから早13年、私の部署では私の13年が最長らしい。以前は無事故について、たいして意識はしていなかったが、結婚して子供を授かってから製品事故、交通トラブルもなく無事に帰宅する事を更に強く思うようになった。永く無事故無違反の人からすればまだまだと思われるだろうが、免許証を大切に私の取組みを書こうと思う。

普段運転していて心がけているのは、心にゆとりを持つということである。時間に余裕を持ち、割込まれても、あおられても冷静でいること。具体的にはどうしているか。時間的余裕は簡単で、目的地までの距離、ルート、渋滞予測などの情報入手しそれに見合った早めの出発時刻の設定をすること。

次に、気持ちの余裕はどうだろう。あおられたり割込まれたりなどの外的要因にはどう対処しているか。私も人間なのでそういった事があればやはり腹が立つ。しかしそういった時には、5歳の娘が覚えたての字で一生懸命書いてくれた手紙を運転席内にクリップ留で下げてあり、嫌でも目に入るようにしてあってそれを見て4秒待って深呼吸をするのだ。「何事も無くノートラブルで帰る」と。そうする事で気持ちが落ち着くのだ。

実際の運転に関しては、

1. 車間距離をとる。気持ちの余裕が車間距離にも表れるというもの。車間距離を確保しておけば前方で何かあっても大概の事には対応できるのだ。
2. 車線変更はなるべくしない。車線に移るのはかなりのリスクがあると私は思っているのでできる限り同一車線にいるようにしている。
3. 速度は控えめに。若い頃は割とブイブイ行っていたように思うがここ数年前から私用車でも私先頭で後方に列ができるようになった。法定速度ちよつと。歳のせいか控えるというより速度を出すのが怖くなったようだ。
4. 「まあいいか」はなし。速度にしろ、信号機にしろ「まあいいか」で行動しない。誰かが見ているのだ。特に仕事は会社の看板を背負っているので「まあいいか」で違反するのではなく、周りから「あのトラック(会社)はちゃんとしているなあ」と思われる運転をする。
5. それに似ているが「大手のマネをする」だ。大手運送会社は安全に対する取組みも数歩先を行っているのでマネの出来る事はしていこうと思う。交差点、右左折時は横断歩道手前で一時停止したり、指差し呼称、高速道での法定速度クルーズ走行など、無理なくマネの出来ることはどんどんしていこうと思う。
6. 逆の「だろ運転をする」だ。一般に言う「だろ運転」は「出てこないだろう」や「止まるだろう」といった自分に都合の「〇〇だろう」だが、私の考えるのは「逆の」だろ、だ。「この車たぶん出てくる」とか「止まらんやろな」と逆のだろを予想していると、おのずと足はアクセルからブレーキに移っていたりして、もしもの対応が早くなるのだ。また予想が当たると少し気持ちが良かったりするのである。

その他にも動画投稿サイトのドラレコ映像を見て、自分に置き換えてみてこの場合どう対処すべきだったかなど考えてみる。これはけっこう参考になったりするのである。他にも同僚や上司のヒヤリハットの話は積極的に聞いたり、とにかく情報は仕入れるようにしている。

総じて、運転は憶病なくらいが丁度いい。

交通社会の一員として、円滑な交通に努めると共に模範となるような運転を心がけ、これからも私なりに安全運転の為にどうすれば良いかを追求し、大切な家族の為に頑張っていこうと思う。